

# 初めての植物観察通信・春編

H.26年4月20日開催

先日はお疲れ様でした。当日は雨の予報で、お天気が心配でしたが、暖かく風もなく穏やかで本当にちょうど良い観察日和となりましたね。今回は、道ばたの雑草的なものと、山林の中の春の植物を比べながら観察してみました。

春は、可愛い花が多くて、野山を歩いても楽しいですね。覚えるのが大変かも知れませんが、季候も良いので、また散歩がてら植物を観察してみてください。

さて、当日見られた植物につきまして備忘録的にメモを作りましたのでお送りします。私の不勉強からわかりにくかったり、また、間違っていたりすることも時々(しばしばかも?)あるかと思います。そういったものは、この通信で訂正補足させていただきます。

まず、本日最初に観察したのは、クスノキの葉でした。木の葉は3本の脈が目立っていましたね。植物の葉を観察するには脈の走り方、葉の縁の鋸歯、葉柄の長さなどが大切でした。

次にマツバウンランを観察しました。葉が松葉のように細い特徴がありましたね。カスケードを登って、博物館の裏では、ヤハズエンドウを見ました。この植物の葉は、複葉でしたね。忘れてしまった方は、テキストで復習してみてください。また、葉の付け根に托葉があって、その上に腺点がありましたね。

次にオニタビラコを観察しました。この植物は、キク科のタンポポの仲間でしたね。キクの仲間とタンポポの仲間の違いを覚えていますか? 続いてムシクサを観察して、草地に生えるスズメノエンドウを見てみました。小さなかわいい花が着いていましたね。

木陰では、シャガが満開でした。シャガは、中国原産のアヤメ科の植物ですが、日本では種子ができません。また、この植物の葉の作りをお話ししました。単面葉でしたね。裏か表か覚えていますか? そして、林縁に咲く青い花、ホタルカズラを見ました。青い花がとてもきれいでしたね。



マツバウンラン



ヤハズエンドウ



ヤハズエンドウの腺点



オニタビラコ



ムシクサ



スズメノエンドウ



シャガ



ホタルカズラ

竹藪の影では、二種類の帰化植物、フラサバソウとヒメオドリコソウを見ました。フラサバソウは、文明開化の頃、日本の植物を調べた外国人、フランシエとサヴァチエにちなんだ名前でした。森の中では、ヒメウスが花盛りでした。白く見えるのは実は萼なのが意外でした。ムラサキケマンは、触ると種子が飛び散るというお話をしました。さらに進むと、今度はホウチャクソウが満開でした。満開と言っても、花はみんな閉じて垂れ下がっていました。変わった形のウラシマソウは、里芋の仲間でした。その後は、ジューニヒトエやコバノガマズミ、アオモジを見て帰路につきました。



フラサバソウ



ヒメオドリコソウ



ヒメウス



ムラサキケマン



ホウチャクソウ



ウラシマソウ



ジューニヒトエ



コバノガマズミ

## 質問コーナー

行事の間に頂いた質問にお答えします。ご不明の点は、メールなどでもお問い合わせください。

**Q**キュウリグサって、集散花序ですか？

**A**：花がある規則性を持ってまとまってついたものを、花序といいます。花序には、散房花序、散形花序など、いろいろなタイプのものがあります。キュウリグサなどの含まれるムラサキ科の植物は、集散花序を持ちます。特に、単出集散花序というタイプのものです。また、花序がくるくと巻いて、サソリの尾のようなので"サソリ形花序" などとも呼ばれています。



キュウリグサ

**Q**ホウチャクソウは何科？

**A**：イヌサフラン科とするのが良いでしょう。ホウチャクソウは、長らくユリ科の植物として扱われてきました。しかし、近年の分子系統解析の結果では、ユリ科には多くの系統の異なる植物が間違っ含まれていたことがわかり、この系統解析に基づいた分類学の教科書では、イヌサフラン科として扱われています。

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖 (いばらぎやすし) Ibaragi-yasushi-1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川上席学芸員がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。